

# 令和5年度第1回周南市社会教育委員会議

## 議事録

◆日時 令和5年6月28日(水) 10:00~11:20

◆会場 周南市徳山保健センター 健診ホール

### 出席者

○ 社会教育委員 11人(欠席3人)

生村委員、國廣委員、坂本委員、戸倉委員、比上委員、廣澤委員、福本委員、藤井委員  
松下委員、山本委員、渡部委員

○ 事務局 9人

【教育部】山本部長

【生涯学習課】川上、福田、鬼武、清水、東影、井手、弘中

【学び・交流プラザ】内本

## 1 日程、議題

- (1) 周南市民憲章の唱和
- (2) 教育部長あいさつ
- (3) 委員自己紹介
- (4) 令和5年度山口県社会教育功労者表彰
- (5) 事務局職員紹介
- (6) 定足数の報告
- (7) 議事録署名委員の指名  
生村委員、坂本委員を指名
- (8) 議事（議題）
  - ① 社会教育関係団体に対する補助金の交付について
  - ② 教育大綱（生涯学習課分）に掲げる目標の進捗管理について
- (9) 事務連絡

## 2 社会教育委員会議 議事（要旨）

### 事務局

引き続きまして、議事に入らせていただきます。渡部会長の議事進行により、協議をお願いしたいと思います。

なお、本日の会議は、11時20分を終了予定時刻としております。円滑な会議進行につきまして、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

本日の議題は、大きく2点ございます。一つ目は、「社会教育関係団体に対する補助金の交付について」。二つ目は、「教育大綱（生涯学習課分）に掲げる目標の進捗管理について」。でございます。

それでは、渡部会長、よろしくお願いいたします。

### ① 社会教育関係団体に対する補助金の交付について

#### 会長

議事に入っていきたいと思います。それでは、一番目の「社会教育関係団体に対する補助金の交付について」。まずは事務局より、ご説明をよろしくお願いいたします。

#### 事務局

～説明の概要～（資料1、資料2）

##### ・社会教育関係団体に対する補助金の交付について

社会教育関係団体に対して補助金を交付する際には、社会教育法第13条に「社会教育委員の会議に諮り、委員の意見を伺う必要がある」旨が明記されている。議題1は、その規定に基づき、委員の皆様方から意見を頂くもの。

今年度の補助金交付団体及び事業は、8団体、9事業であり、今年度については、わんぱく船開催事業の内容拡大のために、昨年度60万円から80万円へ20万円の増額と周南市PTA連合会の運営基盤安定のために、昨年度37万2千円から49万円へ11万8千円増額し、総額43万5千円の補助支援を予定している。

資料2に、各団体の事業概要及び補助予定額を記載している。

補助支援することについてご意見を頂いた後、生涯学習課が市の「補助金交付基準」にそって審査を行い、補助金の交付を行う。

#### 会長

はい、ありがとうございます。ただ今、事務局から「社会教育関係団体に対する補助金の交付について」の説明がございました。このことに関して、ご質問、ご意見などがありましたらお願いします。いかがでしょうか。

(挙手あり)

#### 委員

周南市連合婦人会ですが、以前PTAの代表として、この婦人会に構成員として参加していたのですが、どんどん組織率も低下していて、私の地区の婦人会も無くなってしまいました。今、連合婦人会はどのくらいの組織率で、どれくらいの会員さんがいるのかお尋ねします。

#### 会長

はい、ありがとうございました。もしお答えができるようでしたらお答えをお願いします。

#### 事務局

会員は令和5年度現在で約220名となっております。部会については、徳山地区、熊毛地区、鹿野地区の3地区の3部会ということになっています。

#### 委員

私が参加していたのも随分前ですが、あの時でも高齢化により活動が難しくなったという話が出ていた。若い方を活動に誘っていらっしゃるのでしょうか。

#### 事務局

各地区で声掛けはしておられ、毎年入られる方もいますが、どうしても高齢の方で辞められるという方もおられ、プラスマイナスで増加はしていないみたいです。コロナ禍でなかなか事業が出来なかったのですが、昨年からは各地区で少しずつ事業が再開され、活動されています。今年もいろいろなことを実施されるということをご報告いただいておりますので、見守っていきたいなと思っています。

#### 会長

ありがとうございました。補助金については特に問題はないということですよ。組織がどうなっているのかなというところですよ。他に何かご意見、ご質問はありますか。

よろしいでしょうか。補助金の交付についてお認めいただけますでしょうか。

ありがとうございました。続きまして、2番目の議事に移らせていただきます。「教育大綱（生涯学習課分）に掲げる目標の進捗管理について」ということで、こちらも事務局の方からご説明をお願いいたします。

#### ② 教育大綱（生涯学習課分）に掲げる目標の進捗管理について

## 事務局

### ～説明の概要～（資料3、資料4）

#### ・生涯学習課が取り組む3つの基本方針

- 1 学校・家庭・地域が連携して、子どもたちの育ちや学びを地域ぐるみで見守り、支援する活動を進め、子どもたちの「生き抜く力」を育むことができる環境づくりに努めます。
- 2 市民の自主的・継続的な学習活動を支援することで、生涯学習の推進に取り組みます。
- 3 八代のツルなど文化財の保護と活用を図り、郷土の特色ある歴史や文化の継承を進めます。

#### ・令和5年度の重点事業

基本方針③コミュニティ・スクールの充実

推進方向 6 地域学校協働活動の充実

推進方向 7 青少年の健全育成

基本方針⑤いきいきと学び続ける生涯学習社会の実現

推進方向1 1 生涯学習活動の推進

推進方向1 4 文化財の保護と活用

推進方向1 7 まちづくりを担うひとづくり

#### ・重点事業について、令和4年度の目標値と実績値からの評価と令和5年度の目標値（資料5）

令和4年度も前年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な活動が縮小を余儀なくされた1年であった。新型コロナウイルス感染症対策を講じて工夫をしながら活動を行い、目標を達成できた事業もあるが、未達成のものもある。

令和5年度は、5月8日より新型コロナウイルス感染症は5類になり緩和されたので、コロナ禍前の活動状態に戻るよう積極的に事業に取り組む。

## 会長

はい、ありがとうございました。教育大綱（生涯学習課分）の進捗管理について、ただいま事務局の方からご説明がありました。いろいろご意見、ご質問などあるかと思えます。どなたからでも結構でございますので、ご意見を賜ればと思います。いかがでしょうか。

（挙手あり）

## 委員

地域学校協働活動のところですか。こちらは大事な視点だと思うのですが、学校のいろいろな要望に応えながら、学校と一緒に活動をするということがほとんどです。指標として挙げるのは大変難しいと思うのですが、小学校も中学校も、今一番大きな活動ではないかなと思っています。放課後子供教室においては、サポーターの協力をお願いということを行っておりますが、児童クラブも同様に、学校が全然関わっていないわけではないのですが、少し切り離されている印象があります。デジタル化するのは大変難しいですが、基本的には学校に負担をかけずに、持続可能な活動を学校のニーズに合わせながら活動していくことを目標としています。指標化するのは大変難しいと思うのですが、この辺のことを少し加味していただければなと思っています。

## 会長

事務局から、ただいまのご意見に対してコメント等がございましたらお願いしたいのですが。学校のご意

見もいただけたら。

### 事務局

現在の指標の取り方が一番良いというわけではないことは、私たちも自覚はしていますが、地域学校協働活動推進員の活動内容の成果として示していくものとして、どういったものが良いか、生涯学習課としてどういった吸い上げ方が考えられるかなとお話を聞いておりました。コロナ禍の令和2年度、3年度で活動が一旦止まったところをリスタートしているところですが、今年度の活動の状況を伺いながら、今後、活動を推進していくためには何かものさしになるものがある方が取り組みやすいと思うので、どういうものが目標値として皆さんと共通に理解していけるものなのか、他課を含めて情報を整理して、今年、来年についても取り組んでいきたいと思っておりますし、出来れば次の大綱は、そういう指標が出来ていければと考えているところです。あまり答えになっていないかもしれませんが。

### 会長

コミスクの件も含めて重要なことだと思いますので、ありがとうございます。何か学校現場からコメントなどは特にありませんか。

### 委員

地域学校協働活動推進員の方が実際に学校に来ていただいて、いろいろなコーディネートを行っていただいているのは確かなことです。確かに、何回実施してもらった、何人に来ていただいたというところは見えていますが、随分仕事をしていただいているので、実際の活動が見えてくると良いなとも思います。

### 会長

ありがとうございました。はい。

### 委員

6年間ほど山口県の地域連携教育推進員の活動をしていました。その時に、いろいろな全国大会などに参加させていただいていた時のお話ですが、山口県の現場ではないのですが、学校と地域の協働が上手く出来ているところは、県や市が独自に予算をつけて、コミスクであればコミスク専属の先生を加配しているところが結構ありました。先生方も授業等がある中で、そういう立場の先生を加配して下さったら、上手くいくのではないかと思います。山口県内にはそういった先生はいないですね。そういう立場の先生を小学校に1人、中学校に1人とかではなく、地域の大きなくくりでも良いのですが、そういう予算を取ることにはできますか。

### 会長

例えば、放課後子ども教室に学校の現場の先生に入っていただいて、お金を支払って対応いただくような仕組みですか。

### 委員

そういうことではなくて、もっと大きく全体を見ることのできる先生を加配いただきたいです。これは民生委員主任児童委員の全国大会の時に、そういった学校の事例を知りました。

## 事務局

基本的には、公立小、中学校の教員に関しては県の採用ということになっております。様々な事業を進めるにあたり、本市、山口県で取り組みを進める中で、加配といったことも可能であるかどうか研究していきたいと思います。

## 会長

今後の検討課題ということで、よろしく願いいたします。他に。

## 委員

2点お伺いしたいと思います。鹿野では、子どもたちに郷土を愛する心や歴史を知ることを中心に鹿野学が進められています。進められているのは非常に良いことだと思うのですが、学校の先生方が資料や学習教材などをたくさん準備されています。子どもたちを指導する立場として、非常に必要なことだとは思いますが、先生方の立場からすれば、すごい重荷になっているのではないかと心配しています。また鹿野では、子どもたちが地域活動へ参加をしてくれています。地域で活動している者としてはとても嬉しくて、いずれは鹿野に帰ってきてくれれば良いなと思いながら見守って、指導などしているところです。もう1点は文化財の件です。先ほどの鹿野学でも歴史文化に触れるということから、この歴史民俗資料展示室には、教材としてもすごく良い資料がありますし、展示室に行けば鹿野の歴史の大部分を学ぶことができます。学校でも、せっかくやるのであれば大いに利用していただきたいと思っています。文化祭の時など、いろいろな形で説明会を企画して実施しているのですが、なかなか利用される方が少ないことが現状です。良い資料があるのにもったいないなと思っています。

## 会長

ありがとうございます。2点ございました。1点目は先生への負担について、2点目は利用の促進についてだと思います。

## 事務局

1点目についてです。学校の教育活動の中では、当然目標や目的を持ち、教育活動を展開されていると思っています。その中で、委員がおっしゃったように、教員の負担が非常に大きくなっているのではないかと懸念をされている部分についてです。教員も目的を持ち、子どもたちのためにということで、一生懸命、教材集めや授業を展開されていると思います。一義的には子どもたちのための教育を第一に行いながら、一つとしては地域や研究されている方に手伝っていただきながら、役割分担といった工夫をしながら、負担とならないよう、進めていけたら良いのかなと思っています。

## 事務局

続きまして、鹿野の民俗資料展示室についてでございます。今までも鹿野と熊毛の展示室は、図書館の中にあり、専任の職員が配置されていない状況にあるわけですがけれども、このたび新南陽の施設を移転、再開をいたします。こちらに併せて、鹿野の展示についても、全体的な取り組みとして、鹿野の魅力を伝える形に一定程度的見直しが必要だと思っています。またそれぞれの民俗資料展示室についても、もう一回磨いた魅力を学校や地域の方にご見学をいただけるように、周知の方法を改めて考えているところです。

## 会長

ありがとうございました。

#### 委員

学校のカリキュラムの中には総合的な学習の時間というものがあります。例えば中学1年生では年間50時間、2、3年生では70時間が総合的な学習の時間に充てられています。そこで、地域の内容をテーマにして、子どもたちが探究的な学びに取り組みます。できることなら、例えば、そのうちの20時間を先生方ではなく、地域の方々に担っていただければとても良いと思います。そうすると、先ほどの1から10まで先生が全部準備することもないし、教員が異動して変わっても、そこに根付いた教育は続けていけるということができるので、そこは分担し、講師などの形で学校に入ってもらえばと思います。

#### 会長

ありがとうございます。総合学習の時間に地域の方に関わっていただくことについて、学校運営協議会等で共有していただけたら良いですね。ありがとうございました。

#### 委員

先日、子育て広場を学校の先生に負担をかけないように、地域の方たちで開催をしました。ただ、机を出してくださいや、放送機器などの設備もすぐ使えるように準備などをお願いしておいてくださいといったことを、どうしても先生方をお願いをしないといけません。それだけでも負担をかけてしまっているだろうなと思います。先日も、ボランティアが高齢化してきており、長机を運ぶことも大変でした。校長先生から、せめて重たいものだけでも生徒にできることはさせてください、それが教育ですと言ってくださって、大変ありがたかったです。なので、2回目からは、せめて重たいものだけでも片付けに協力していただこうと思っています。また、7月7日に、自分の住んでいる地域の良いところと悪いところを、生徒が調べて授業をするそうです。その時に、地域の人に入っていただいて、こういう歴史があるよ、こういったことがあるよといったアドバイスをいただきたいと思います。これも先生が全部調べるのではなく、生徒が家族や近所のおじいちゃんおばあちゃんに聞いたり、調べたりして資料を作ります。どのようにしていけば、先生が資料を作らなくて済むのか、地域の方々の力を借りながら生徒自身に実施させることが出来るのかなと考えています。先生と地域だけが動くのではなくて、生徒に入ってもらおう。子育て広場も、コロナ明けの1回目ということでスタッフが全て行いましたが、来年の開催時は、赤ちゃんは何をしたら喜ぶのか、どんな遊びをさせるのかを生徒自身で考え、企画から参加してもらおうと思っています。スタッフの負担も減りますし、これから社会に出ていく子どもたちですので、自分で企画をして、たとえそれが失敗しても大きな勉強になるのではないかなと思います。企画の段階から生徒が携わる。そうすると、実行、反省から学ぶこともあり良いかなと思います。

#### 会長

はい、ありがとうございました。貴重な意見をどうもありがとうございました。他に。

#### 委員

同じく地域学校協働活動についてです。県の取り組みの一つとして、中学校や高校で、学校内子育て広場というものを開催しています。乳幼児の親子が学校へ行き、実際に生徒たちとふれあうという体験です。コロナ禍で周南地域では実施できていなかったのですが、この度市内の中学校で実施をされました。その時に会場で、他市の取り組みを聞いてびっくりしたことがあります。それは、このような活動をする事によって、先生の負担になっているという話を聞きました。私は、子育て広場にアドバイザーという立場

で関わっているのですが、地域と学校が共同して実施するため、先生方は少しゆとりが持てるという風に、周南市では取り組んでいます。それが別の市では、他の人が入って来られることで、逆に先生方の負担になっているのですという話を聞いて、少し驚いていたところでした。地域の方たちの協力で、先生と一緒に授業を作り上げているということが、周南市では当たり前だと思っていたので、そういう点で、周南市の取り組みはすばらしいなと思っています。

#### 会長

はい、ありがとうございました。

#### 委員

今の議題と同じようなことなのですが、今年は地域の祭りを開催しようということで、中学校や高校のボランティアを募ろうという話も出ました。地域の郷土愛というものは、少し年配の方が教えてくれないと、将来ある子どもたちには伝わらないかなということで、お祭りの司会なども中学校の子どもたちに任せてみようかなと思っています。やっぱり主体的に地域に関わる子どもたちというのはとても大事なことで、地域を愛する心の根幹を作ってあげるといことは、地域の私たちでないと出来ないことだと思います。先ほどからたくさん意見が出ておりますが、とても大事なことだと思うので、この辺のことを間違えないように、小学校、中学校のコミュニティと一緒に私たち地域も関わっていけたら良いかなと思っています。

#### 会長

はい、ありがとうございます。

#### 委員

5年ぐらい前に、市外の中学校で開催をされた子育て広場を見学に行ったのですが、子ども達が主体的に活動していました。その学校は、子どもの数が増えて、空き教室が無くて、お昼休み中でも会場設営のほとんどを中学生が行っていました。そういった先進校は、地域自体が盛り上がっていますし、輝いて見えました。そういう先進校に見学に行ったら良いのではないかなと思いました。

また、20数年前頃に、荒れた高校を地域の赤ちゃんと交流することで立て直したという学校があります。高校の先生ですが、その後大学の准教授になられて、ヒューマンコミュニティを学ぶところで活動、活躍されておられる方がいます。周南だけではなくて、そういう先進地、先進校を社会教育委員で見学に行くというのはいかがでしょうか。

#### 会長

はい、ありがとうございます。

#### 事務局

地域学校協働活動についてご意見いただいて、私は現在社会教育主事という立場で、それまでは学校教育の場におりまして、今はこちらの生涯学習の場において、学校現場のことも分かった状態で、今のお話を聞いており、本当にありがたいなと思っています。例えば、ちょうど昨日地域連携担当教職員の会議がありました。そこでは、地域学校協働活動推進員の方と顔なじみになり、連絡をとりあうことが大切ですねという意見がたくさん出ました。学校の先生は異動があり、変わってしまうので、私たち市教委としても、まずは地域学校協働活動推進員や地域コーディネーター、それからもっと他の地域の方々を知っていきましようということで、そういう方とお話ししながら作り上げていきたいと思いますというふうに、研修の度に



伝えております。校長会、教頭会の中でも、職員会議や校内研修でいろんな先生方に伝えてくださいということをお願いしています。教員の負担のことをすごく挙げていただいているのですが、これは全てカリキュラムというところが一つのキーになると思います。「郷土を愛し、関わりを大切に、自ら高めていく児童」を育てると掲げています。地域のことを知って、しっかり学習しようという風に、教員も、地域学校協働活動推進員や地域の方々のお力をお借りして、鹿野学ということをはじめたという経緯があります。そのため、カリキュラムの内、まずは目標を地域と学校が共有するということがとても大切だなど、そうすれば地域の皆さんも、こういう子どもたちを育てる、だから今ボランティアに参加しているのだと思っただけなら、もしかしたらもっと見る目も変わってくるかもしれないなと思っています。私も、地域の皆さんにすごくいろいろ教えていただきました。地域の方から教わる場を、学校運営協議会等で教員と地域の方々がもっと一緒にお話ができたらなと思っています。先日、地域の方と教員の方が対等に話をしている学校運営協議会がありました。どんどん広がり、地域の方と教員が協力していけたら、教員の負担の部分もどんどん減っていくのではないかと感じました。

#### 会長

はい、ありがとうございます。地域学校協働活動についてのご意見が集中しておりますが、いかに持続させていくかということで、いろいろなご提案をいただいておりますが、その他の点で何かございますか。

#### 委員

児童クラブの定員等の現況について教えてください。児童クラブの定員が1, 905名という数字がずっと続いていますが、これが上限ですよ、あるいは補助員の方がいらっしゃらないので人数が増えていかないのでしょうか。それとも需要がないのでしょうか。

#### 事務局

児童クラブについてのお尋ねでございます。福祉側、保育行政ということになるのですが、放課後子供教室との一体型という関係で児童クラブをこちらに掲載させていただいております。お尋ねのありましたこの児童クラブは、条例上の定員が1, 905名で、実際には令和5年6月1日現在の在籍児童数としては1, 381名でございます。児童数自体は、長い目で見れば減少傾向にはあるんですけども、やはりニーズとしては横ばいする傾向にあると考えています。今24小学校区に25のクラブがあります。教室の数としては46教室でございます。それぞれ支援員や補助員、スタッフをたくさん雇用させていただき、保育の充実を図って参りたいと思っております。

#### 委員

児童クラブの在籍人数が1, 381名とおっしゃいましたが、スタッフは十分にいらっしゃるんですか。

#### 事務局

今現在、支援員と補助員は通年でだいたい250名。夏休みにはさらに7、80名補助員を増員しております。その中で、シフトを組みますので、たくさんいらっしゃるほうがそれだけ手厚くできると思っておりますので支援員、補助員につきましては、たくさんの方に参加をしていただきたいと思いますと思っております。

#### 会長

はい、ありがとうございました。その他にご意見やご質問などありましたら。

## 委員

今の質問に加えて、例えば児童何人に対して1人といったように、先生が何名といった決まりがあるのでしょうか。

## 事務局

児童クラブの基準は、国の基準を参酌して取り組むようになっているのですが、児童1人当たりについて、保育面積の目安がだいたい1.65㎡、それから1教室あたり概ね40名を単位とします。そして1つの教室に対して支援員さんが最低1名必要ですよという事柄が決まっています。それぞれ概ね40名を目安にしながら、周南市では児童が一定程度増えていくにつれて補助員の加配人数といったものを内部の中で定めて運用をしているところです。

## 会長

はい、ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

## 委員

しゅうなん出前トークの件ですが、鹿野もどんどん人口が減ってきており、鹿野を存続させるためにはどうしたら良いかということで、いろいろな地域活動が進められています。その中で、地域課題の学習機会の提供ということで、この出前トークを位置づけられていると思うのですが、この出前トーク自体をいろいろな団体グループの方が知らないということが大きな課題ではないかと思います。地域課題に対する学習機会を、活動の中でどんどん作ろうということで取り組んでいますが、やっぱり分からないことが結構あります。そのような時に出前トークを利用したいなということがありますが、内容の制限があり、なかなか難しいというところもよく分かります。PRも含めて、そういう活動も取り組んでいただけたら良いのではないかなと思っています。

## 会長

出前トークの利用件数についてのご質問だと思いますが、いかがでしょうか。

## 事務局

実績報告の中でもお伝えをしましたが、目標値に対して利用の件数が伸び悩んでいるというところがございます。昨年や一昨年もこの場で同じようなこととお話したような気がするのですが、まだ出前トークの周知という部分と、いろいろなメニューとして、求められているものがどのような物であるかについては、今、出前トークというのは所管課側で申しあげたいことが主なテーマとなっています。そうした中で、各課へのテーマ設定の働きかけが他にはないですかということは、投げかけをしていかなければならないのかなと思っています。活用についても、今でも「ふあいんど」やホームページ等で公表をしておりますが、他にご紹介をしていくことが必要なのかなと感じているところです。

## 会長

ありがとうございました。もう少し時間がありますけれどもいかがでしょうか。

## 委員

現在、生涯学習や社会教育について考えているところで、1個だけ分からないことがあります。昔も今も

変わっていないことは育てたい子ども像は変わっていないと思います。勉強だけではなくて、社会性を身につけたり、世代を超えてコミュニケーションが取れたり、さらに郷土愛を少しは持って来て、外に出て行かないで郷土を盛り上げてほしいなという思いは変わってなくて、それを学校だけにお任せするのではなく、地域も一体になって地域で地域の子どもたちを育てようという点については、これも変わっていないと思います。ただ1つだけ、その中で当たり前になってしまったのですが、先生方の負担というところです。いつの頃からか先生方の負担っていうのが殊更にクローズアップされるようになりました。いつから先生方ってそんなに負担になることが発生したのかなというこのターニングポイントがあまりよく分かっていなくて。先生方を助けて、先生方の負担、子どもたちと向き合う時間を確保するために、地域が頑張っって手伝おうや、というようなノリにも近い時期も確かにあったように思います。学校ってエリアの事なのか、施設の事なのか。校長先生を頭とするところなのか。一人一人の教員の接し方のことを言っているのか。そういうところに見えないところがあります。少し前には地域の人と先生がコミュニケーションを密にとっていたという。ただコミュニケーションをとるための時間が負担だということもあるかもしれませんし。これから先、地域として、学校も交えて子どもたちを育てて行くのに、実際のところのニーズというか、学校の先生方がそれを求めているのか、それはもう勝手に地域でということなのか、その辺が少し図りかねています。その答えは導きにくいことになっていて、その前提というのはもう何が負担になっているのかを教えてください。ただ単に、ブラックボックスのように先生方が「負担」というのは分かるのですが、昔よりは、そういう支援する組織が、組織ぐるみで活動をしているようになっていと思いますし、例えば、ICT、DX など先生方の負担を減らすようなデジタルツールも増えていると感じています。

## 会長

本質的な問いかけをいただき、ありがとうございます。

## 委員

先生方は何が負担になっているのですかというお問い合わせだったと思います。これは、一概には言えない、一人一人違ってきます。負担と思われている方は負担かもしれませんが、負担ではなくむしろ面白いよという方もいらっしゃいます。だから平均をはかるといったことができないのです。私が随分昔に、当時のある園長先生に聞いて、自分が若かったのですが、妙に納得できた言葉があります。今このようなことを言えば時代錯誤かもしれないのですが、教育は聖職ですと言われたのです。いろいろなことを超越できるような気持ちになりました。それからもっといろいろな方と出会う中で、魂の話だよねという話になり、妙に納得できました。なので、地域の方と交流をしている時に一番感じるのは、安心感がある方とお話をすると、将来の話ができます。なかなかそうならない時は過去の話ばかりになります。将来の話ができるというのは、会が発展していくし、いろいろな目標ができていくし、楽しくなっていきます。園が変わる、先生が変わる、地域が変わる、保護者が変わるといように、良い循環をしていくことができるのかなということを率直に思っています。

## 委員

先生の負担ということですが、やっぱり学校のニーズと地域の思いが一致していない時には、先生方もやはり戸惑われることもあるのではないかと思います。私は基本的には、学校から出たニーズのみ実行しています。子育て広場も、校長先生の方からやってもらえないだろうかという風に言われてスタートしています。こういう時には、地域学校協働活動推進員に依頼していただきたいなと思います。今こういうことをこういう人数で募集していますなど、間をつなげることができたら、先生方の負担も少なくなるように

思います。いきなり、この内容で実施をしたいということを地域の方から言われると、学校の立場では大変断りづらいのではないかと私は思います。やはり子どもたちのために、やってあげようという善の思いがあるので、学校は受けざるを得なくなるということで、先生方の負担になるということもあると思います。何か生徒と関わらせて実施をしたいという時には、地域学校協働活動推進員を間に入れてほしいという思いがあります。何かをするときには、先生、生徒、地域の方全員が良かったねと終われるような取り組みでないといけないのではないのかなという風に感じています。

#### 会長

ありがとうございました。いろいろ課題も見えてきたところで、時間も押して参りましたので、この議題は以上にさせていただきます。頂戴した意見を反映して、教育事業、生涯学習の重点事業に生かしていただければと思っております。この案件に関してはいったん閉じさせていただき、予定の審議に関しては終えたいと思います。進行を事務局にお返ししたいと思います。

#### 事務局

ありがとうございました。学校家庭地域の連携について、掘り下げたご意見が出て参りました。資料6を用意しておりましたが、こちらは持ち帰られてご覧いただけたらと思います。生涯学習講座の開催件数229件という実績をお示しましたが、その内訳がどんなものがあるかということで分析を試みたものでございます。またその中で、実際市民の自主活動グループがどういうジャンルの活動をされているか、出前トークがどういうジャンルが注目を浴びているかというところの中で、今後そういった生涯学習講座の推進にあたって、どういったところに穴があるのだろうかについてもまたお気づきのところがありましたらご意見いただけたらと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

#### 事務局

渡部会長、ありがとうございました。

それでは、事務局から事務連絡をさせていただきます。

#### 事務局

～事務連絡の概要～

- ・令和5年度山口県社会教育委員連絡協議会総会及び研修会の案内
- ・少年の主張コンクール周南大会の開催について

(閉会)